

平成26年度
第1回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成26年12月18日（木）13：30～15：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いけだ 池田	たろう 太郎	岡山市連合町内会副会長
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行取締役会長
おかもと 岡本	れいこ 玲子	岡山大学大学院保健学研究科教授
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こまつ 小松	やすのぶ 泰信	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
しおみ 塩見	まきこ 槇子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
たかはた 高旗	ひろし 浩志	岡山大学教師教育開発センター教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（宮安） それでは定刻がまいりましたので、ただいまより、平成26年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。

2 市長あいさつ

開会にあたりまして、岡山市長 大森雅夫から御挨拶を申し上げます。

○大森市長 皆さん、こんにちは。岡山市長の大森雅夫でございます。新たに策定する総合計画を審議するために第1回基本政策審議会を開きましたところ、御多用中にもかかわらず、御出席をいただきましてありがとうございます。

私が市長に就任してから1年と少しがたったところであります。その間、岡山をさらに飛躍させたいという思いから、住みやすさ、そして力強さ、安全・安心、この3つの視点を重要視しまして、人が優先の歩いて楽しいまちづくり、ESDの推進、そして、女性が輝き、子どもたちの笑顔があふれるまちづくり、また、医療が、そして、福祉が充実したまちづくり。歴史と文化が香るまちづくりなど、日々邁進してきたところでございます。

私としては、こうした取り組みを通じて人や情報の流れ、また、まちづくりへの関心や期待といった面で岡山市にも変化の胎動が感じられるというように思っているところであります。

新たな総合計画は、これから10年先の岡山市のあるべき姿を描き、その実現に向けたまちづくりの大きな道筋を示すものであります。我が国が人口減少と少子高齢化の急激な進行が同時に進み、人口構成も大きく変わるといふ人類が未だに経験したことがないような社会に突入する中で、岡山市もまたその荒波の中に漕ぎ出していかなければならない状況であります。この変化を見据えて、将来の目指すべき方向性を思い描き、それに向けて岡山市も変わっていく必要があると思っております。

人口減少を克服し、また、東京一極集中を是正するため、国においても地方創生に向けた総合的な取り組みが実施されようとしております。岡山市においてもこれに呼応した取り組みを進めてまいりる考えではございますが、やはり社会インフラが整っている岡山のような地方の中核拠点都市が中心となって、産業の振興・雇用の創出といった問題について県全体をけん引していく、ひいては日本全体を変えていく役割を担っていかなければならないものだと考えております。

そのためにも従来型の発想だけでなく、独創性のあるアイデアや知恵を出し合いながら、まちづくりを進めていかなければならないと思っているところであります。

あわせて、中心市街地や中山間地域など、多様な地域を有する岡山市では、やはり各地

域の資源や特色を生かした地域づくりの方向性についても、地域の声を聴きながら、課題等をしっかりと把握した上で議論をしていくことが求められていると考えております。

本日お集まりの委員の皆様におかれましては、新たな総合計画が真に岡山市の発展と市民生活の、また、市民の福祉の向上に資する羅針盤となるよう、それぞれのお立場から御意見を賜りまして、実りある議論を交わしていただきますよう、心からお願いを申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

3 委員等の紹介

○事務局（宮安） 続きまして、本日御出席の委員の皆様を御紹介いたします。本来ならば、事務局から御紹介申し上げるところですが、誠に恐縮ですが、委員の皆様から役職、お名前のみで自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、阿部典子様より順次よろしくお願いいいたします。

○阿部典子委員 皆さん、こんにちは。NPO 法人みんなの集落研究所の阿部典子と申します。よろしくお願いいたします。

○阿部宏史委員 岡山大学の理事 副学長を務めております阿部と申します。よろしくお願いいたします。

○池田委員 岡山市連合町内会の副会長 池田と申します。よろしくお願い致します。

○泉委員 中国銀行会長の泉史博でございます。どうぞよろしくお願い致します。

○岡本委員 岡山大学大学院保健学研究科の岡本玲子でございます。よろしくお願い致します。

○梶谷委員 岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長の梶谷俊介でございます。よろしくお願いいたします。

○片山委員 NPO 法人岡山市日中友好協会の会長をしております、片山浩子でございます。よろしくお願いいたします。

○越宗委員 山陽新聞社会長の越宗孝昌でございます。よろしくお願いいたします。

○小松委員 岡山大学大学院環境生命科学研究科の小松泰信でございます。長ったらしい研究科名ですが、基本は農学部の人間であります。

○塩見委員 失礼いたします。岡山市連合婦人会会長の塩見槿子と申します。よろしくお願いいたします。

○杉山委員 就実大学経営学部の杉山慎策でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○清板委員 ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科の清板芳子と申します。よろしくお願い致します。

○高旗委員 岡山大学の教師教育開発センターの高旗と申します。よろしくお願いいたします。

○浜田委員 岡山大学の医学部の浜田と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（宮安） ありがとうございます。

本日は、藤原恵子委員が、御都合により御欠席されておられますが、岡山市基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数の御出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

続きまして、市側の紹介をさせていただきます。市長の大森雅夫でございます。

○大森市長 よろしくお願いいいたします。

○事務局（宮安） 副市長の橋本豪介でございます。

○橋本副市長 どうぞよろしくお願いいいたします。

○事務局（宮安） 副市長の横山忠弘でございます。

○横山副市長 どうぞよろしくお願いいいたします。

○事務局（宮安） 政策局長の田中利直でございます。

○田中政策局長 よろしくお願いいいたします。

○事務局（宮安） 私は、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課企画総務・調査担当課長の宮安でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。

4 会長及び副会長の互選

続きまして、正副会長の選出に入らせていただきます。本審議会設置条例第5条第2項に基づきまして、委員の互選により会長、副会長を定めることとなっております。まず、会長について、いかがいたしましょうか。御意見がございましたらお願いいいたします。

○片山委員 はい。

○事務局（宮安） 片山委員お願いします。

○片山委員 片山でございます。早速でございますが会長の選任ということで、私は越宗委員が適任であると思っております。越宗さんは報道関係に長く携われ、岡山の情勢や市民の声にも精通され、高い識見をお持ちであると思っておりますので、ぜひ御推薦申し上げたいと思います。よろしくお願いいいたします。

○事務局（宮安） ありがとうございます。

ただいま、会長は越宗様という御提案がございましたが、皆様いかがいたしましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり・拍手〕

○事務局（宮安） よろしいでしょうか。それでは、越宗委員ということで、御賛同をいただきましたので、会長は越宗委員にお願いしたいと思っております。引き続きまして、副会長の選任につきましては、いかがいたしましょうか。

○片山委員 たびたび片山でございます。会長をお引き受けくださる越宗委員のお考えをお聞きし、その上で選ばれてはいかがかと思っております。よろしくお願いいいたします。

○事務局（宮安） ありがとうございます。ただいま、越宗委員にまずはお考えをとということでございますので、越宗委員から何かおありでしょうか。

○越宗会長 ただいま、会長に選任されました越宗でございます。副会長につきましては泉委員さんが金融を通じて、岡山の経済界で現在もですが大変長く活躍をなさっておられまして、幅広い識見をお持ちの方でございます。泉委員さんをお願いしたらと思います。よろしく願いいたします。

○事務局（宮安） よろしいですか。御異議はございませんでしょうか。

〔異議なし・拍手〕

○事務局（宮安） ありがとうございます。ただいま、越宗委員から、副会長は泉委員という御推薦があり、皆さんの御賛同を得ましたので、副会長は泉委員ということでお願いをいたします。どうもありがとうございました。

それでは越宗委員、泉委員、正面の会長、副会長席に移動してください。お願いいたします。

それでは、新たに選出されました越宗会長から、一言御挨拶をお願いしたいと思います。

○越宗会長 改めまして、越宗でございます。会長という大役を引き受けさせていただきます訳でございますが、委員の皆様の御支援、御協力を賜りながら力を尽くしてまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど大森市長さんのお話をお伺いしましたけれども、いろいろと岡山市の状況は時とともに変化をしておりますし、近い将来にもっともっと大きな変化が現れることございましょうから、その辺り、そうした動きにこの審議会といたしましては的確に対応をしつつ、かつ変化の予測をしながら市民の皆さんと意識を共有して、市民とともに実現に向けて行動できるような、そういう計画づくりに向けて皆さんと御一緒に総合的な議論を進めてまいりたいとそんなふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（宮安） ありがとうございました。

それでは、続きまして泉副会長、一言御挨拶をお願いいたします。

○泉副会長 改めまして、泉でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。条例によりますように副会長は会長を補佐するということでございます。会長の越宗さんの技量を遺憾なく発揮していただけるように補佐させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（宮安） ありがとうございました。

5 諮問

続きまして、諮問でございます。これから御審議をいただきます、岡山市のまちづくりの長期的な構想について、大森市長から越宗会長に諮問書をお渡ししたいと存じます。大森市長、お願いします。

○大森市長 岡山市基本政策審議会会長、越宗孝昌様。岡山市長、大森雅夫。岡山市基本政策等に関する審議会設置条例第1条及び第2条第1項第1号の規定に基づき、岡山市のまちづくりの長期的な構想について、貴会の意見をお伺いいたします。よろしくお願いい

たします。

○事務局（宮安） ありがとうございます。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により、これから先の審議会の議事運営につきましては、越宗会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○越宗会長 それでは、着席して進めさせていただきます。会議次第に沿って議事を進めてまいりたいと思ひますけれども、何しろ不慣れでございますので、いろいろ不都合もあるかと思ひますけれども、御容赦よろしくお願ひいたします。

では、議事に入ります前に、傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いします。

○事務局（宮安） 本日は、現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。またこのあと、傍聴希望者が来られた場合、岡山市基本政策等に関する審議会傍聴手続取扱要領に基づきまして、特に支障がなければ、傍聴の許可をいただけたらと思ひます。いかがでしょうか。

○越宗会長 本日の審議につきましては、特に支障になる事由はないと思われまますので、傍聴手続取扱要領に従いまして、本会議を公開にしたいと思ひますけれども、委員の皆様、いかがでございましょうか。よろしゅうございませうか。

〔異議なし・拍手〕

○越宗会長 それでは、本日の会議の傍聴希望者には、傍聴を許可したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（宮安） それでは入っていただきます。それでは会長、よろしくお願ひいたします。

6 協議事項（1）新たな総合計画の基本的な考え方について

○越宗会長 ではまず、協議事項（1）の「新たな総合計画策定の基本的な考え方」について、事務局から説明を願ひます。

○事務局（門田） 事務局の政策企画課長の門田でございます。よろしくお願ひいたします。恐縮でございますが、座って説明をさせていただきます。お手元の資料の資料5をご覧ください。新たな総合計画の策定にあたっての基本的な考え方ということで、現時点での考え方について御説明をさせていただきます。めくっていただいて1ページ、計画策定の趣旨でございます。

岡山市は、これまで平成21年の政令指定都市移行と同時にスタートした都市ビジョンに基づきまちづくりを進めてまいりましたが、既に6年が経過しようとしておりまして、取り巻く状況も大きく変化をしてきております。特に、人口減少への対応が、我が国全体の大きな政策テーマとなる中で、岡山市においてもそれを見据えたまちづくりを進めていく必要がございます。そのためには、市民一人ひとりが健康で暮らし、安心して結婚・出産、子育てをすることができる環境づくり、女性がさまざまな分野で輝くための取り組み等が求められております。

さらに、岡山市は合併を重ねて市域が拡大してまいりましたために、多様な地域がござ

います。そうした地域の特性や資源を生かしながら、調和のとれた地域づくりを進めていく必要がございます。一方、岡山大都市圏の中心都市として、産業の振興や雇用の創出など、圏域全体の成長と発展をけん引する役割も求められております。

こうしたことに加えまして、巨大地震や大型台風、集中豪雨等、自然災害への不安の増大、それから先般の ESD ユネスコ世界会議をきっかけとします市民協働意識の高まり。それから岡山駅前への大型商業施設の開業など、都市ビジョンの策定時には想定していなかった大きな環境変化も生じております。こうした時代の要請や環境の変化に的確に対応し、市民の皆様とともに魅力と活力のあるまちづくりを進めるため、新たな総合計画を平成 28 年度中に策定しようとするものでございます。

ここで策定の趣旨に関連いたしまして、人口減少に関しての岡山市の見通しについて少し説明をさせていただければと思います。恐れ入りますが、横長の資料 7 をご覧いただければと思います。表紙をめくっていただきまして右下に 2 ページと書いてあるところをご覧ください。

そこに示したグラフの青い実線が、岡山市におきまして、今回総合計画策定の基礎資料として推定をしたものでございます。①と書いてありますが平成 32 年の 71 万 8 千人をピークに岡山市も人口減少社会に突入すると。そして②というところですが、平成 47 年には 70 万人割れになるという予測でございます。

ちなみに、緑の点線が現在の総合計画であります都市ビジョンの想定人口ということで、右肩上がりを想定しております。

また国立社会保障・人口問題研究所を黒い実線で参考を表記させていただいております。社人研ですと平成 27 年にピークに達して、以降下がっていく推定になってございます。社人研と岡山市の推計の差は移動をどう見るかというところでございます。社人研の方は平成 22 年から 32 年までの 10 年間の間に移動が半減するだろうと、その後は横ばいになる想定をしておりますが、岡山市の推計の方はこれまでの過去のデータを長期的なものとする両方を見たところ、岡山市の場合は移動率が下がっていく傾向は見られないということで、このまま横ばいになるだろうという前提で推計をした結果、こういう差が生じてございます。

ちなみにでございますが、一番下の毎月流動人口の平成 26 年のところ、これが実績値でございますが、平成 26 年に岡山市の人口が 71 万 4 千を超えております。社人研の平成 27 年のピーク時の 712,548 を既に超えておりますので、私どもとしてはあくまで現時点ではございますが、青い線辺りで推移していくのではなかろうかと見ておるところでございます。

それから次の 3 ページをご覧くださいなのですが、この平成 32 年をピークに下がっていく中で、単に人口が減少するだけではなくて、少子高齢化が進展いたしまして、年齢構造が大きく変化をいたします。

青い折れ線グラフに注目していただきますと、これが 0 から 14 歳の年少人口の比率を記

したものでございますが、平成 22 年に 14.3 パーセントだったものが、平成 57 年を見ますと 11.1 パーセントということで下がっていくと。一方で、生産年齢人口、一番上の方にあります緑の折れ線グラフですが、22 年には 64.2 パーセントでございますが、57 年には 55.3 パーセントと下がっております。

一方で赤い折れ線グラフの 65 歳以上の老年人口比率が平成 22 年は 21.5 パーセントであったものが、平成 57 年には 33.6 パーセント、3 人に一人ということで大幅に上昇することが予測されております。

それから、8 ページをご覧くださいいただければと思うんですが。ここは推計ではございませんで、過去 5 年間の実績に基づく動向でございますが、興味深い数値なのでここで紹介をさせていただきます。

左上のグラフに県内の市町村と岡山市の間の純移動の推移がございますが、赤磐市がマイナスになっている以外は大体プラスということで、県内はほとんどの市町村からの純移動がプラスになってございます。一方、左下のグラフを見ていただきますと県外は中国四国地方からの純移動がプラスとなっている反面、東京圏や大阪圏に対しては、純移動がマイナスということになっております。

こうした動きを解りやすくまとめたものが右下でございまして、県内、中四国から岡山市は中四国の拠点都市ということで、あくまで差し引きベースの話なんですけど、人を集めている岡山市は東京圏・大阪圏に対しては人が流出しているということでございます。ただ、今のところ、全体を見ると、移動全体ではこの 5 年間ですと例えば 4,747 人になると思っておりますが、全体としては社会増ということでなっております。一応これを紹介させていただきます。

再び、資料 5 に戻っていただけますでしょうか。資料 5 の 1 ページでございます。2 番目、計画の名称でございますが、これはまだ決まっておりません。当面第 6 次岡山市総合計画という仮称を使わせていただこうと思っております。

それから 3 番目、計画の構成、計画期間でございます。これにつきまして 2 ページの図をご覧くださいいただければと思います。

長期構想（仮称）でございますが、長期的なまちづくりの基本理念・将来像を示すものでございまして、平成 28 年度から 37 年度までの 10 年間の期間を想定しております。それからやはり仮称ですが、中期計画ということで、この長期構想を実現するための政策・施策の方向性を示すということで、これにつきましては平成 28 年度から 5 年間の計画期間を想定してございます。いずれも議会の議決の対象になるということでございます。

それから中期計画を推進するために、特に重点的に実施する施策、事業の取り組み状況を毎年度、中期計画取組状況報告書で公表したいと考えています。5 年間の計画期間の中でどこまで取り組んで来られたのか、今後、どういう見通しなのかをお示しして、PDCA を回していきたいということを考えております。

1 点、中期計画の中では、区別計画ということで、地域の特性を踏まえた地域づくりの

基本的な方向性等をお示しすることになっております。本文で言うと、2ページの4行目のところにその旨を記載させていただいております。

それでは次に行きまして、計画策定体制等でございます。まず、基本政策審議会ということで、本日ここにお集まりいただきました委員の皆様には御審議をいただきながら、策定を進めてまいりたいと考えております。特に長期構想につきましては、先ほど諮問をさせていただきましたので、答申をいただいて策定をしていきたいと思っております。それから、庁内につきましては、市長を委員長とする総合計画策定検討委員会を設置し、全庁的に取り組んでまいります。

それから次の3ページでございます。市民参加ということで、ワークショップ、市民アンケートなどさまざまな機会を設けたいと思っております。また、構想や計画の素案ができた段階ではパブリックコメントを実施し、幅広い市民意見を反映してまいりたいと思っております。

5番目、計画策定にあたって留意すべき事項でございます。当たり前のことですが、まず市民に解りやすい計画にしたいということで、市民と目標を共有し、協働してまちづくりを進めていくための計画にしたいと考えております。

それから2番目 PDCA。プラン・ドゥ・チェック・アクションのサイクルの確立と見える化ということで、中期計画の中で客観的な成果指標を設定し、定期的に評価・検証をする仕組みをつくってまいります。また、先ほど申し上げましたように、中期計画取組状況報告書を毎年度公表することで実効性のある計画にしたいと考えております。

それから3番目でございます。個別計画との整合性の確保ということです。岡山市ではさまざまな計画に基づいて、行政を進めております。いろんな計画がありますが、その中でも、これからご審議いただく総合計画は、市政の最上位計画という位置づけになっております。当然ながらその変更に伴って、個別計画の方も整合性を確認し、必要に応じて改定を行っていくことを考えております。特に、この策定期間がちょうどこれからの2年の期間に重複するようなものがあれば、場合によっては進度調整も図って整合性を確保していきたいと思っております。また、行財政改革の理念も総合計画の中にきちんと位置づけて、その理念の下に新たな行革の実践方針をつくっていくことで、行革との整合性も図っていきたいと思っております。

続きまして、策定スケジュールでございます。4ページに示している策定スケジュールをご覧ください。本日、基本政策審議会に諮問させていただきましたが、まず長期構想から策定を進めてまいります。審議会でのテーマ別討議とか長期構想の文案についてご審議いただきまして、11月を目途にご答申いただきたいと思っております。

この間並行して、市民参加ということで、ワークショップ、市民アンケートを実施いたしまして、その結果を審議会にもご報告し、市民の声を反映しながら策定していきたいと思っております。審議会の委員の皆様から11月にいただく答申を踏まえて、当局で平成27年11月に素案をお示しし、これに基づいてパブリックコメントも実施して、それを踏まえ

て平成 28 年の 2 月議会に議案を提出し、3 月に議決されればそこで確定するような流れを考えてございます。

それから長期構想を踏まえて、引き続き中期計画の策定に入っております。中期計画につきましては、基本的には市の執行部が案を作成し、それを審議会や議会にもお示しして、ご審議いただきながら、策定していくことを考えてございます。審議会では平成 28 年度に入って 5 回程度のご審議をお願いできればと今のところ思っております。また、市民の皆様からも各種団体との意見交換等、ご意見を反映するようにはしてまいりたいと思っております。

平成 28 年の 9 月に素案をお示しし、パブリックコメントを経て、11 月の議会に議案を提出し、議決を平成 28 年末にいただくという流れを想定してございます。また、このときに中期計画取組状況報告書も中期計画とセットでお示しすることを想定してございます。以上が策定スケジュールでございます。

続きまして、資料の 6 をご覧いただきたいと思っております。これからたちまちご審議いただく長期構想の審議の進め方のイメージをお示しさせていただいております。

本日、諮問をさせていただきましたが、次回以降はテーマ別に討議をお願いしたいと思っております。第 2 回目は今年度末、つまり、来年 3 月を想定しておりますが「人口減少時代における都市のあり方」ということで、これは仮でございますが想定しております。それから第 3 回目、第 4 回目と「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」というような主要な政策分野を一通り、2 回目、3 回目、4 回目までで議論していただいて、その中で浮かび上がった重点課題について、そこに的を絞って第 5 回目、第 6 回目により突っ込んだ、深めた議論をお願いできたらと考えております。

そして、概ね 9 月以降ぐらいを想定しておりますが、長期構想に盛り込む内容、文案、答申の案を固めていくことで、第 7 回目が骨子案、第 8 回目が原案、第 9 回目が答申案ということで 3 回程度のご審議をいただいて、11 月には答申をいただければと考えております。

いただいた答申を基に、当局として長期構想の素案をお示ししまして、議会での議論とかパブリックコメントも経て、修正したものを再度第 10 回目ということで、平成 28 年 1 月にご審議をいただいた上で、平成 28 年 2 月議会に長期構想の案を議案として提出していきたいという流れで考えてございます。あくまで現時点でのイメージでございます。委員の皆様からのご意見もお伺いし、会長、副会長ともご相談をさせていただきながら、決めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。説明は以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。ただいま事務局から、新たな総合計画策定の基本的な考え方等について説明がございました。この説明につきまして委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。ご質問でも結構ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。梶谷さんどうぞ。

○梶谷委員 梶谷です。長期構想、一応期間は10年ということで、これはもう長くすることは考えていないということよろしいですか。

○事務局（門田） 期間10年を長くすることは考えていないのかというご質問でございますが、一応見据える先は、先ほどの人口推計とかもかなり先まで見ておまして、そういう将来、かなり長期は見据えながらも計画自体の構想の期間としては10年ということで、また、その時点で見直しということはあらかじめ想定していけばいいのではないかという考えを持っております。

○梶谷委員 ありがとうございます。やはり、いろんなものを、まちをつくっていくとなると10年ではなかなか完結しないと思いますので、もう少し長期も見据えながら、10年の中でどこまでやるかということも含めておく必要があるのではないかということを感じました。

○越宗会長 もちろんテーマによっては、10年よりもっともっと先を見ながら議論もしていかなければならないこともございましょうけれども、基本的には一応10年先ということにして、特例的にそういう場合には、また議論をお願いすればいいのではないかとそんなことも思いますが。

○梶谷委員 結構でございます。

○越宗会長 よろしいですか。ほかにはございませんか。どうぞ。

○梶谷委員 それからこの計画策定体制ですが、基本的にはこの基本政策審議会で審議を行っていくということですが、素案とか原案は、基本的には総合計画策定検討委員会で作業をされるだろうと思うのですが。これは基本的には全庁的な取り組みで、市役所の中だけで完結した組織で検討されるということですか。

○事務局（門田） 今、ご指摘のありました総合計画策定検討委員会自体は、市役所の中の庁内組織でございます。

○梶谷委員 逆に言うと、恐らくまちの長期計画は、実行段階になると市役所だけでは前に進まない。今までの経緯を見ても市役所だけが作った計画だけではなかなか動いていない。経済界が政策提言しただけでも動かないようなことが続いてきていたと思うんですね。

そういった意味から言うと、本当にまちをどうつくっていくかというのは、行政とやっぱり市民が計画段階から一緒になって本当に真摯な意見交換をしながら作り込んで、それぞれが実行段階に立ったときには、それぞれが責任を持ってそれぞれの責任を果たしていく計画の策定というようなものが必要になってくるのではないのかなとか。

市民参加でワークショップや市民アンケート等の機会を設けて意見を聞くとありますが、今までもこういうやり方をされてきていますが、意外とこれでは実行段階で本当に参加した人が責任を持って行動を移すところまで行っているかということ、十分に行っていないような気がします。

そういった意味では、やはり折角これからの長期をつくっていくということで、本当に

今までと関係が大きく変わるといことから言うと、市民のより多くの方ともそういった課題の共通認識をしながら、行政がやるべき課題、そして民間、我々企業がやるべき課題、市民がやっていく課題というものをやっぱりこの計画策定段階を見てしっかりとすり合わせをしながら、つくっていくことが非常に大事ではないかなと。

前の計画にも市民協働とかということが挙がっておりましたけれども、実態はなかなかこのところがきちんとできていなかった。ぜひこの計画策定においてはそこがきちんとできるようなつくり込み、つくり方をご検討いただければ。どうしてもこの審議会だけでは、素案が出てきたものに対してある程度意見が言えたとしても、時間的にも短いですし、特に若い人とかいろんな実際の現場の方の意見というのは吸い上げにくいこともあろうかと思っておりますので、そういったことを、ぜひこの策定の中に入れていただければなと思っております。

○越宗会長 梶谷さんのご意見ですが、何か事務局からございますか。

○事務局（門田） 貴重なご意見をありがとうございます。まちづくりは本当に行政だけでできるものではございません。市民それから企業の皆さんとか、いろんな事業主体が関わりながら進めていくものだろうと思っております。ワークショップをするのを一つ取っても、どういう形でするのが一番参画意識を高めながらできるのかというようなことにも配慮しながら、意識を持って策定してまいりたいと思っております。

○大森市長 ちょっと私の方から。梶谷さんのおっしゃったのはそのとおりだと思います。あとはテーマによってやっぱり濃淡があるでしょうね。だからテーマに応じてもう少しブレイクダウンをした議論をすべきだというのは、私も結構あるんじゃないのかなと私も思っております。それも例えば、テーマに応じて会長のご指示を得ながら、市役所が今度NPOの方々と議論を交わすというのものもあるかもしれませんし。例えば委員の方の何人かに入っていただいて議論するようなものもあるかもしれないなというように漠然とは思っております。

テーマに応じて、また、市議会、会長や副会長からもご指示をいただきながら、そのような取り組み方もやらせていただこうと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○越宗会長 今の市長のお話ありがとうございましたけれども、全てにわたって市民参加の率を上げるためにパブリックコメント等では不十分という部分もあるかも分かりませんが、まさに本当に深く市民に関わっていただくためには、やっぱりテーマによってそういうことも大いに採用していかなくちゃいけないと思っておりますし、これはまた実際の議論に入って、ここではもう少し市民参の新しいあり方というか、そういうことも考えなくちゃいけないんじゃないかということになりましたら、またそこでいろいろ手を打っていきたくと思っておりますがよろしいですか。

ほかにはございませんか。ありがとうございます。

6 協議事項（2）これからの岡山市のまちづくり

それでは協議事項（2）「これからの岡山市のまちづくり」に移りたいと思っております。これ

は委員の皆さんが、日ごろ思っておられます岡山市の魅力でありますとか、あるいは課題、そして岡山がこれからどのようなまちを目指すべきなのか等々につきまして、お一人ずつ自由にご発言をいただきたいと思います。ただ皆様方、論客ぞろいでありますので、時間を無制限にしますと大変なことになりますので、お話になりたいことは多々あると思いますが、これから第2回からいろいろ具体的な議論になりますときに十分時間をお取りしますので、このところはお考えの一端ということで、お一人3分以内を厳守いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。それでは、阿部委員さんからお願いします。

○阿部典子委員 私はふだんみんなの集落研究所ということで中山間地域の課題であるとか、もちろん地域の協働ということを進めているんですけども、その中でやはり岡山市は建部・御津といった中山間地域がありまして、その中でもたくさんの資源があります。

中山間地域の課題を通して私たちがいつも見ているのは、やはり今日もすごくしっかりご説明をいただいて、示していただいた人口減少・高齢化の問題ですよね。高齢化をこれから地域で、社会でどう支えていくのかということはずごく大事になってくると思います。中山間地域も含めた岡山市のあり方を一緒に考えていきたいことが1つ。

それからもう1つは、やはり高齢化に向けた助け合いというようなことも含めた、高齢者も女性もすべての人に居場所と役割があるということを考えていけたらなと思います。そういうふうにしていかないと、福祉というものが、行政が全部支えていくものというふうになると、なかなかこの人口構造の中で言うと難しいものもありますし、そういった意味では社会福祉協議会であるとか、公民館であるとか、ESDの取り組みなんかの連携。それから民間の企業であるとか、組合であるとか、そういったところがされている助け合い。そういったたくさんの地域への生活を支えるものを連携させていけるようなことも、こういう場で考えていきたいなと思いました。ありがとうございます。

○越宗会長 ありがとうございます。阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 私、都市計画と交通計画が専門であります。岡山に来てから28年になるんですけども。瀬戸大橋が開通してから岡山はずいぶん広域交通の利便性はよくなったと思います。それから生活面での環境も非常に恵まれていて、いろんな自然とか歴史の資産も豊かであるということです。最近、定住場所としても注目されているようでもありますけれども、そういった面でのポテンシャルはすばらしいと思います。

ただ、市長さんの発言の中にもありましたように、都市としての力強さというのが、もう1つ感じられないなというのが常々思っていることであります。これだけの交通の利便性があれば、もっとたくさんの人がやってきて注目されてもいいのになと思うんですけども。そのところが、もの足りないところでもあります。

特に、この資料を見ましたら、160万都市圏というと日本ではかなり大きな都市圏であると思うんですけども、その160万の人口集積の強さがもう1つ見えないという。これは岡山都市圏全体が多極分散型の都市圏であって、ある人に言わせれば「岡山市というのは人口40万ぐらいじゃないですか」ということもあるようです。

そういった中で、今、人口減少、高齢化が急速に進んでおりまして、岡山市でも都心部、それから郊外部を中心にいろんな高齢化人口減少に伴う都市問題が顕在化してくると思います。私は、今やはり都心部を中心にして吸引力のある都心部をつくる、住みやすい都心部をつくるのが極めて重要じゃないかなと思います。それによって集約型の都市づくりを進めていく。

もう1点、重要なことはやはり市民協働のまちづくりの体制をつくっていくことで。これに関しては先ほどもお話がありましたけれども、ESDの世界会議がありまして公民館を拠点にして、いろんな参加主体が協働するまちづくりの仕組みが岡山モデルということで世界に評価されております。公民館はコミュニティの拠点として非常に分かりやすい拠点施設であり、そこに学校をつなげて地域の方々が集うという。この仕組みは、市全域に押し広げて、もっと強化していく必要があると思います。

それからもう1点。岡山市クラスの都市になると、国内だけではなくてグローバル社会の中での岡山市の位置づけ。それが認知されるような、そういった斬新な取り組みも必要ではないかなというふうに思います。ESDはその一つでありますけれども、ほかにもまだまだ産業面とか、例えば交通の面とか、いろんな面でもっと先進的な取り組みを進めていく必要があると思っております。以上です。

○越宗会長 では池田委員さんお願いします。

○池田委員 私は岡山市の連合町内会をお世話させていただいているのですが、この総合計画の策定にあたっての基本的な考え方にも、市民協働を含めて市民参加という言葉がたくさん出ておりますけど、どうしても行政が先に先に勝手なことをしてくれると、私はそう取っているのですけれども。

やはり地方自治というのは、町内会なしには私はできないと思っているのですけれども、どうしても先に決まったことを町内会に押しつける。これは、私はどうも疑問に思っていることでございます。その辺は「そうではない」と言って協議すると、今度は行政の方が丸投げにしてくるんですね。私も困るんですね、その辺が。その辺はこれからお話をしながら進めていけばいいのかなと思っています。一つだけ言わせていただきました。

○越宗会長 岡本委員さん。

○岡本委員 公衆衛生看護と地域保健の立場から意見を申し上げます。少子高齢化が進むことが避けられない以上、老いても健康に、健康長寿をまっとうすることが重要と考えます。そのためには平均寿命ではなく、健康寿命を延ばす対策が欠かせません。

健康寿命日本一の静岡県では、平成11年度から10年間にわたって実施した高齢者のコホート研究から運動、栄養、社会参加の三分野の生活習慣を有する高齢者が、何もない高齢者に比べて死亡率が半減するという調査結果を明らかにしています。

これから考えますと、運動に栄養にとバランスのよい健康づくりを推進するとともに、社会参加をすること、つまり、高齢者が地域社会の担い手になるための仕組みづくりを今よりさらに進めていく必要があると考えます。

これは退職してからでは遅過ぎることで、働き盛りの世代から、つまり、その人が会社の資源であるときから、退職後に地域の資源へと円滑に移行できるような各企業の取り組みを奨励し、優良企業には何らかの支援策を設けるなど、政略的に行う必要があると考えます。市民の社会参加が増えることは、健康関連指標でもあるソーシャル・キャピタル「信頼」「規範」「ネットワーク」を醸成することにもつながります。社会参加の目的はさまざまです。子育て世代や高齢者の孤立予防、地域の水路や防犯などの安全の見守り、災害に向けた地域のネットワークづくりなど、参画すべき事項はたくさんあります。

運動については、市長もこの間テレビで広報されておられた、先ごろ始まった健康ポイントの普及や、岡山出身の中西圭三さん作曲で話題の「OKAYAMA！市民体操」の普及などが効果的と考えます。岡山市は既に厚生労働省の「健康寿命をのばそう！アワード」を受賞した都市であり、受賞都市で構成する健康寿命延伸都市協議会にも参画していると伺っています。そういった基盤のあることが岡山の宝だと思います。

今ある貴重な資源、町内会や健康市民おかやま21推進協議会、愛育委員会など岡山の地区組織がより活性化されること。産業保健と地域保健をつなぐ、いえ、もっと総合的には地域保健から学校保健、学校から産業保健、そしてまた地域保健へと切れ目のない健康づくり。一生の健康を支える対策、そして社会参加の仕組みづくりが重要と考えます。

その際に、それが一部の人だけへの恩恵とならないように、そして多様性を排除しないよう内向きだけではなく外も受け入れ、変化も受け入れる、そういう文化とともに市民と専門職がパートナーシップを組んで進めていくことが重要と考えます。「健康が地域を活性化する重要な資源なんだ。」という意識を高め、それが岡山の誇りになるような方向付けをしていければよいのではないかと考えます。以上です。

○梶谷委員 ありがとうございます。先ほど話しましたので、大体終わったんですけども。

実は岡山というのは、私も自然環境がいいというのもありますけども、本当に多様な市民の方がいろんな活動をされているなと思うんですね。そういったものが、ただまとまって一つの方向へ行っていないというか、ばらばらのような気がしますし。そういった意味で言うと、いろいろと環境が変化する中で、どう地域をつくっていくかというときには、やっぱり多様な市民が一緒になってまちのことを考えて、それぞれが責任分担をしながらの自分の役割を果たしていける、そのような地域づくりの体質というか、そういったものが岡山市にできてくると、それぞれある資源をフルに生かせるようになるんじゃないのかなど。

要するに、どうしても今までの行政というのは、法に決められた手続きで進めばそれでよしというところからですね。市民も行政がやってくれるというところから、いかにそれぞれが自分の役割に責任を果たして動くかといったところへこれを通じて変わっていくといいなと思っております。

○片山委員 よろしいですか。

○梶谷委員 はい。

○片山委員 私はアジアの国々に外国人の留学生の募集にまいますけれども、「岡山を知っている人」と言ったときにまず皆無でございまして、「岡山は知らない」と言う人がほとんどでございます。

そこで、私が岡山の魅力ということで「非常に安全安心のまちである。災害が少ない。そして空気がきれいでまちがきれい。人が親切だ。」ということを宣伝いたします。まちのサイズも生活するには最適であると思って、そのことを留学生の人たちに言うわけです。

これを全部考えてみますと、非常に基本的な生活の基盤が、岡山はとていいんじゃないかなと思っております。そして、この自然もとてもいいところであるということが、岡山の魅力ではあると思って皆さんに言うんですが、先ほどもどなたかが「ちょっともの足りない」とおっしゃいましたように、本当に何か「日本一」が一つあると海外に行ったときに「これが岡山だ。」と言えます。直島が今非常に世界から注目されておまして、ああいったことも非常に話がしやすいんでございますけれども、岡山にも日本一が何かできたらいいなと思っております。それで何が提案できるんだと言われてますと、私今すぐには申し上げられなくて残念なんですけど、ぜひ日本一を作りたいです。

そして、このような形で計画を立てますと、何となくこれもあれもという総花的と言いますか、みんな入っているけれども特徴がないような感じになることが今まで多かったような気がします。ですから、やはり日本一を一つ何か頑張りたいなという気持ちがいたします。

それともう一つ。多文化共生社会ということ。これがこれから必ずやってくる時代の流れではないかと私は思っております。少子化、高齢化と言われてまして、今非常に労働力が低下しているというふうに使われています。その労働力をどのように補っているかと言いますと、非常に簡単に言いますと女性、高齢者、外国人で、この三つだけで少子高齢化の中での労働力の低下を補うというのは難しいと思いますが、推進していく上で大事じゃないかということがよく使われております。

女性と男性は違いますし、高齢者も若い人とは違いますし、外国人はもちろん異文化の人たち。そういう人たちがそういう多文化、やはり高齢者も女性も外国人もそれぞれが互いに多文化であると思うんですけれども、多文化が共生できるような社会というものを、共生して、そして、協働、共に働いて、共創、共にそういう社会をつくっていくことが必要ではないかと思っております。

では、それをすぐに何かこういうふうにしたら多文化共生ができるというようなことを今具体的に申し上げることはできないんですけれども、そういう社会を目指してご検討いただければいいなと思っております。以上でございます。

○越宗会長 それでは続いて小松先生の方から。

○小松委員 3点申し上げたいと思います。2つは自分の専門と言いますか、とそれから市役所、市と関わりの中で2点申し上げたいと思います。

一つは先ほど申し上げたように、基本的には農学部の人間なものですから、農業ということなんですが。用意していただきました平成26年度市政の概要を広げておりました。やっぱり、ここに書かれているものを10年のスパンで深めていくことも重要なだろう。折角こういうものが出されていますから、そういうのを見ていると、8の「活力とにぎわいのある国内外に開かれたまちづくり」の中での「食の安全を支える力強い農林水産業の振興」ということも私は特に注視して、そこにいろいろ発言していきたいなと思っています。

ただ私は、現在の政権の中で「強い農業」という言葉があるんですけど、非常に違和感を覚えておまして、「強い」というのは基本的に第二次産業、第三次産業の論理を第一次産業も少しは爪の垢でも煎じて学べというような目線を、どうもあの言葉には含まれているんじゃないか。私自身は「根強い農業」というキーワードで今考えを進めています。そういうものを岡山市の農業というので「根強い農業づくり」ということを政策の中で展開できれば、深掘りできればなと思っています。

もう一つは、男女共同参画の専門委員会に入っておまして、そういうことで、4番目の女性が輝いて安心して子育てできるまちづくりと、とりわけ、女性の力が最大限に発揮される。例えば、女性が輝くまちづくり推進課ができたぐらいですので、大変あれも奥深いもので、私も毎回会議に出るたびに、自分の欠落している部分と言いますか、まだまだだなどと考えさせられることがたくさんあって、自分の勉強にもなっておりますが、逆に言うと、それぐらいまだまだ耳障りのいい言葉だけで過ぎていっている部分がありますので、その辺を実質化していくことかなと思っています。

3つ目は、全く個人的な願望なんですけども、やっぱり高齢化社会の中でこの気候、風土というのは、他県にはないものだと。よその都市にはないものだと思います。私も長崎で生まれて、そのあと大学、それから大学院、就職先で転々としてきまして、意外と温かいところで生まれた人間が寒いところをずっと回ってきて、やっと岡山で非常に落ち着かさせていただいていると思うんですけども。

要は、高齢化社会においては、非常に住みやすいところじゃないかと。年を取ったら岡山市へ行こうと。そういう年寄りが集まってくるまちづくり。これは裏返すと若者が住みにくいまちづくりになるかもしれない。でも、それも若者がちゃんと認めると。高齢者に対してリスペクトすると。そういったまちづくりも3つ目に入れていただければありがたいし、そういう発言をしていきたいなと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○越宗会長 それでは、塩見さん。

○塩見委員 私は岡山市連合婦人会で活動をさせていただいております。今年はESDの世界会議が岡山で開催されまして、先日、県外の方も含めた会議がございまして、ESDについてお尋ねがありましたので、連合婦人会としてもESD関連の活動をパネル展示で紹介を行ったお話をしました。

ESDは環境の問題だけでなく、男女共同参画、あるいは消費の問題、全てに広範囲に行政が取り組む課題の中で取り組める問題ですので、これも継続してやはり基本政策の観

点の1つとして取り上げて継続していけたら、岡山市の開催市としての格が上がるのではないかと考えております。

それから2番目は、教育の問題ですけれども、私たちは「子どもとともにふるさとづくり」で、地域のお母さん役として、子どもと一緒に料理をつくったり、あるいはお飾りをつくったり、触れ合う事業をしております。

教育を考えますときに、岡山県が非常に低迷をしております。それを考えてみますときに、学校教育も重要なんですけれども、家庭教育がほとんど崩壊している状況が見えるところに非常に問題があると、私としては思っています。

ですから、朝食を食べる。みそ汁をつくって、おにぎりをつくって、そして、朝食を食べさせて、出さず、しつけをするという、家庭から見直していくという政策も、何だか地域と共同してできることも考えていただけたら、と考えてこの中に入れていただきたいと思います。

それから、小松先生は長寿の人が住みやすい岡山とおっしゃったんですけど、やっぱり将来的に人口が減少するので、私としては若い、特に女性の方に住んでいただいて、そして、やっぱり子どもを産み育てる環境が整う岡山市。これを目指していくのが必要ではないかと考えております。ありがとうございました。

○越宗会長 杉山委員さん。

○杉山委員 3点申し上げたいと思います。一つ目は、故郷岡山に何十年ぶりに帰って来て一番感じたのが残念ながら岡山が「まち」としてのまとまりがなく、これと言った魅力がないということです。確かに安心・安全で素晴らしいまちであることは間違いないのですが、際立った魅力やセールスポイントがない。昔に比べると駅の西口とか、今回イオンモールとかできて、すごくきれいになってきて随分様変わりはしたなと思いますし、西川緑道公園辺りは、昔に比べるとすごい「まち」に変わりました。恐らく市民もみんな美しい感動的な「まち」を目指していることは間違いないだろうと思います。

リチャード・フロリダという方がクリエイティブ・クラスということを言っていて、芸術家とか経営者とか IT スペシャリストとか、そういう専門家の人たちがたくさん住む「まち」がこれから繁栄するということです。大きな方向とすると、そういう「まち」づくりを目指すべきだと思います。

この彼の理論の中で非常に大切なことは、国と国との競争、日本とアメリカ、日本と中国の間のような国家間の戦いの時代はもうとっくに過ぎていて、既に都市間競争の時代になっているということです。日本国内でも都市間競争の時代に私は入っていると思います。ある政令指定都市が別の大都市に飲み込まれてしまっている状況になっています。

岡山もやはり魅力を高める必要があります。要するに、岡山に住んでいる人が「このまちはすごいね」と感じられるような「まち」づくりをする必要があります。そういう「まち」づくりをしない限り、間違いなく人口はどこかに取られてしまう可能性があります。例えば、岡山に戻ってきて再認識したのですが、岡山には後樂園もあるし、オリエント美術館

もあるし、林原美術館もあるし、それから岡山はスポーツ公園もある。このようにとんでもない凄い資産を多く持っている「まち」なのです。

ところが、ある施設は県が管理したり、別の施設は市が管理したりしているので、全体的に連携ができない状況にあります。これを何とか突破していただいて、岡山市にあるのですから、全て岡山市が管理すれば私は良いのではないかと考えています。そして、これらの素晴らしい資産を統合して発信していき、魅力あふれるコンパクトシティにすれば、きっと高齢者にも若者にも支持される「まち」になるのではないかと考えています。いまのままですと、あまり魅力を感じない、ありふれた「まち」になるのではないかと危惧しています。

2番目に行政の施策を考える時に、経営学が重要視する顧客の観点を絶えず持ち、ちゃんと顧客の意見を入れて欲しいということです。別の言い方をすればちゃんと調査をし、市民の意見をいれて下さいということです。いただいた資料の8の3ページに岡山のプロフィールで「地勢、気候、晴れの国おかやま、少ない地震、良質な水」と書いてあって、「岡山市の水道水は、安全でおいしい水として知られている」と書いてあります。

私は岡山を離れて長く東京に住んでいました。石原都政を100パーセント褒めるわけではありませんが、石原知事がやった間違いのない成果の一つは、水道事業に力を入れて東京の水の質を大きく改善したことです。今や私は岡山の水より東京の水の方がはるかにおいしいと思っています。

別の言い方をすれば、「岡山の水がおいしい」と言うのであれば、政令指定都市20の水道水を全部チェックし、内容分析をし、そして、消費者の意見を聞いて、確かに岡山の水はおいしいということを実証する必要があります。そこにPDCAを入れ、他の市が追い付けないように改善を継続する必要があります。変化の激しい時代です。何もしないと追い越されてしまいます。それが2点目です。

それから3番目は情報発信です。最近山陽新聞社から取材があり、県政についての意見を求められました。私は「他県のまねをしてはどうしようもない。」ということを申し上げました。要するに差異化の必要性です。岡山が岡山として認知されるためには、岡山が他にはない差異化が明確な「県」あるいは「まち」にならなければならない。つまり、「他のところのまねをしてほしくない」ということです。

私見ですが、短期の何とかキャンペーンとかはあまり効果がないと思っています。もっと長期的に持続して実施するPR活動が大切だと思います。例えば、岡山空港には、中国の上海と韓国の仁川から多くの人が入ってきます。グローバル化の時代、岡山にも直接海外から人が入ってきている時代なのです。また、岡山市民が海外に直接出掛けて行っています。この資産を大切にすべきだと思います。今の時代SNSが大きく発展しています。ぜひ大森市長にやっていただきたいのは微博(Weibo)のような中国のSNSに中国語で岡山の紹介をすること、市長として発信をして欲しいと思います。韓国のカカオトークにも韓国語でちゃんと発信をする。折角岡山は上海と仁川に繋がっているのですから。

私は Facebook でインドのモディ首相をフォローしています。モディ首相の発信力は本当にすごいと思います。昨年末衆議院選挙が終わって自民党が大勝したら、即英語と日本語、しかも完璧な日本語で「これから安倍首相と連携をしてインドと日本の関係を強化したい。」というメッセージをちゃんと発信されています。時代は大きく変わってきています。私は他の政令指定都市に先駆けて岡山市が率先して直接海外に向けて情報発信をして欲しいと思います。SNS への現地語での情報発信はそれほど費用はかかりませんが、間違いなく大きな効果があると思っています。

冒頭申し上げた岡山の眠っている資源、オリエント美術館、後樂園など、県とか市の枠を超えて、統合的に岡山のための情報発信を推進していただきたいと強く思っています。岡山がこれだけ素晴らしい「まち」なんだということを直接に海外に向かって発信する時代になっていると思います。以上です。

○越宗会長 次、清板さん。

○清板委員 私は発達心理学でありますとか、臨床心理学でありますとか、それから精神科の面接、精神療法という人と会話をすることによって困っている人とか、悩んでいる人であるとか精神的に不健康になっている方たちの治療とか支援をしていくという仕事をしております。

一方では、大学人として大学の運営でありますとか、全国から集まってくる学生のその後の就職のお世話とか、そういった青年期、子どもが青年になってこれから自分の人生を自分の力で成り立たせていこうという大人になる極点のところを扱う仕事を日常的にしているわけです。そのような中で考えたことをプランとしてお話をしたいと思います。

一つはさっき申しましたように、ちょうど中学生、高校生ぐらいまではまだ親元において、親からの安心できる環境の中で心を育てていっているわけですが、それを過ぎると自立しようとしてきます。その頃、ちょうど青年期の教育であるとか、大学であるとか、そういう高等教育を子どもたちは目指し始めて、そういった中に身を置くようになります。

岡山はそのような青年が安全でもあるし、将来住むところとしてそこで進学もしようかと思いつつながら、全国の子どもたち、青年たちが岡山の高等教育とか青年たちを育てるシステムを求めてやってきてもいいところではないかなとすごく思っています。

そういう方たちが集まると、そういう方たちの家族であるとか、兄弟であるとか、父であるとか、母であるとか、祖父であるとか、祖母である方たちも娘がいる、息子がいる、岡山に第二の家を持とうじゃないか、という発想も非常に出てきやすく、そして、岡山の自然を愛しながら、岡山の市民として生活をしていこうではないかというような、よい誘導も取っ掛かりになるのではないかと思います。

そういう意味では、青年、少年、それから青年期の初めあたりの方たちにとって、魅力のある教育とか、文化とか、あるいは就職の取っ掛かりになるようなものを備えた、そういう政策というか、何か仕掛けを持つことが、これは一ついいことではないかなと思っています。

もう一つ。そうやってもし岡山に定着する青年、若い方が出てきたらというところですが、それは結局子どもの問題につながって、そこに住み、結婚して子どもを生んで育てることにつながっていく方たちかと思うのですが。

これは岡山がというわけではないですが、臨床の仕事をしていまして、子育てに悩む方、あるいは若いけれどもうつ病になる方、あるいは成人して実年期のころに仕事に行き詰まって、本当に自殺を考えようかと思っているような方たちとのカウンセリングや面接をするわけですが、そういった中で特に最近、子どもの連れ去り事件でありますとか、それからネットであるとかチャットであるとか LINE であるとか、そういうふうなものが圧倒的に私たちの生活文化の中に入り込んできていて、それが心に大きな変化をもたらしているなと思います。

それはいい意味でも変化は起きているんですが、やはりたくさん情報が入ってきますので、過剰な情報に振り回される、あるいはそういった情報をもとにする予期不安というか、そこまで考えなくてもいい過剰な不安を抱いてしまって、他者との関係も警戒心をいくらか持ってしまって、寸断されていくという精神風土が、岡山だけではないですが、私たちの中にあるように思います。

そしてまた本来ならば、人の福祉のために出てきたものではあるんですが、過剰に個人情報保護という形骸化した発想が、非常に行きわたってきているために他者とうっかりつながらない方がよい、他者につながる前にはまず疑ってかかれ、警戒してかかれという、そういう文化が学校の中にも、小さな子どもたちの中にも、また、親が子を思う親の心の中にもだんだん広がってきているというふうな感じがします。それはある意味では大切なことかもしれませんが、人が人を信じるということは、やはり健康な心を育てて、他者を思う気持ちをつくるのにとっても大切なことだと思います。

ですので、また岡山は非常に自然にも恵まれていますから、切実に人とつながらなくても、一人でも、少々年を取っていてもなんとかやっていけるみたいなどころがありますから。人と切実に何かを契機にしてつながりあったという経験が、もしかしたら無くても済んじゃうところが、逆にマイナスに働く部分もあるかもしれないなという危惧も感じます。

そのようなことから、人が人と結び合うまち、人と人がもう一歩近づくまち、人と人がもう一言、余計な声掛けをするまち、いい意味での余計な声を掛け合うまちというか、そういうふうな精神風土がつかれるような仕掛け、社会資源かも分かりませんし、人的資源かも分かりませんが、そういう仕掛けをつくって、よい意味での個人情報保護を突き抜ける、突破するそういう心の風土をつくる施策というのを一緒に考えていけたらなと思っています。

○越宗会長 高旗先生。

○高旗委員 ありがとうございます。岡山大学の高旗です。私は大学で教員養成・教師教育を専門としております。また大学の外では、特に岡山市教委の先生方と学校現場に行かせて頂き、先生方の授業力向上支援という点で関わらせて頂いています。そのような立場

から、いくつか申し述べたく思います。

市教委の先生方と関わりを持たせて頂くなかで常に思うことですが、岡山市の良さは「堅実であること」かと思えます。私自身はそこに非常に価値を見出しております。決して派手に見せることはしないかもしれないけれども、今の課題にきちんと向き合いながら、誠実にそれを乗り越えようとしておられる、その良さが広く共有されることが大切かと思っています。

私の立場でこの審議会に関わらせて頂く際に大切にしたいことは「教育」です。「学力の向上」と「市民性の涵養」ということになろうかと思えます。これらのことを学校のなかだけで完結できる時代は、とうの昔に終わっております。岡山では「いきいき学校園づくり」と「地域協働学校」をはじめとする積極的な取り組みを進めておられます。そうした取り組みのなかで、学校を社会に開き、地域とともに子どもたちを育て、そのことによって、将来、地域社会で創造的な課題解決のできる「人財」を育てていくことができるのだと思えます。この審議会は「次の10年」の計画を考える会ですが、同時に「さらにその先の10年」に連なる布石にもなる非常に大切な会だと思っております。そのような視点で関わらせて頂ければと思えます。

いくつか情報を提供いたします。実は今、教員の社会は大量退職・大量採用の時代に入っております。年配の先生方が大量にお辞めになる一方、それを補うために若い先生を大量に採用することが起こっております。そのなかで、30～40代の中堅の先生が非常に少ない状況にあります。ベテランの先生方の経験知が、若い先生方に伝えられないという悩みを抱えておられます。若い先生の力を育むことが非常に大事になってきております。

しかし、「大量退職・大量採用」も、あと5年もすれば止まり、教員採用自体、再び冬の時代がやってくるであろうと予想されています。そのなかで、経験の無い未熟な先生方が増えている事態に対して、どのようにその授業力を向上させるか、ということがひとつの大きな課題です。

それに加えて、先頃、11月20日に中教審に対する文科大臣の諮問がなされました。次期の学習指導要領改訂に関する諮問が出たこととなります。このなかでは次のようなことが言われています。これまで学習指導要領は「何を教えるか」を中心とした構造で出来上がっていた。しかしながら、次期の学習指導要領では、「何を教えるか」も大事ですけれども、同時に「どのように教えるか」ということを中心に置いて抜本的な構造改革をしなければならない、ということです。具体的に言いますと、「アクティブラーニング」とか、「課題解決型の学習指導」ですとか、そうした方法論がますます求められることになるわけです。若い先生自身が児童・生徒であった時代には、おそらく経験したことのない学習指導の方法を、教師となって自ら駆使できなければならないということです。このようなことに対応しようとしたときに、学校の中だけで若い先生の授業力を培おうとすることには、やはり限界があるということです。学校というものを様々に開きながら、若い「人財」を地域社会の資源として活用していくことが、同時にそうした力を育てていくことにつながる

と思います。そのような見通しを持ちながら、私なりに「教育」に焦点を置きながら関わらせていただければと思います。以上です。ありがとうございました。

○越宗会長 それでは浜田委員さん、お願いします。

○浜田委員 岡山大学の浜田でございます。私は社会福祉とか医療が専門でございます。私も簡単に3点ほど述べたいと思うんですが。

1点目は、市長さんが最初に変化への胎動が見られるとおっしゃいましたが、まさに私もそれを感じておりまして、一つはまちづくりに対して非常に関心が広がっていて、私の周りにいる若い人たちなども非常に岡山のまちづくりに関心を持っておりまして。一つは、イオンができたことも、やはり相当なインパクトがあって、それでいろんなその関心が広がっていくのではと考えております。

まさに今回の計画づくりというのも普通はそんなに注目を浴びないと思うんですけども、非常に市民的な関心があるのではないかと考えていまして、そういう意味で、やはり策定プロセス自体が非常に重要だと。さっき大森市長がいろんなやり方といいますか、テーマに応じていろんなパターンをお考えになるということ非常にいいことだと考えていまして、梶谷委員もご指摘になっていまして、できるだけ市民を参加させて、参加した人たちに責任意識と申しますか、そういうのを持たせると。

だから具体的どうしたらいいかということになると思うんですが、ワークショップというのも非常に私はいいと思うんですけども、できるだけ若い人たちあるいは女性、それから現場の方々にこの計画づくりに実質的にコミットしてもらいたいと思いますか、そういうことがあると非常にいいなと、つくり方自体に新鮮味を打ち出していただけたら本当にいいのではないかと考えました。

それから、2番目に岡山市の魅力と課題は何かという課題が与えられているんですけども、私も実は東京圏から流入した人間でありまして、こちらに来てから数年経つんですけども、岡山は確かに派手さはないですけど、非常にいいまちだなと感じていまして、道路は広いし、繁華街も「もっと混まなきゃいけない」と言われているんですが、しかし、生活者にとりましては、混み合わない繁華街の方がずっと買い物がしやすいというか、そういうところもありますし。それから、通勤時間も短いし、あと住まいが駅から近いので、東京にも近いというのも、非常に痛感するところがあります。

あと岡山県の方も地元の方々も非常に自分のことを悪く言われる方が多いんですが、そんなに排外的ではなくて、非常に我々にとって温かく迎えてくれているというのが実感としてあります。

だから私は、かなり魅力はあるなと感じるんですが、考えてみると、岡山の魅力というのは来てから分かることで、知らない人はちょっと知らないというのは確かにございますね。あと皆さん「岡山は魅力がない」というふうにおっしゃるんですけど、もうちょっと「とんがった魅力が何かできないか」ということなのかもしれないんですが、結局、それも先ほどの話と関連していて、市民一人ひとりの覚悟といいますか、我々がどうやって具

体的に生き生きとした活動を展開して、それを発信していくかと。そういうところがもう原点になる。魅力というのは人を惹きつける力ってことだと思いますんで、そこが原点である。市民一人ひとり、それから大学人一人ひとり、それから、行政の方々が覚悟を持って取り組むことが重要なのかなと感じております。

それから3点目は、どのようなまちづくりを目指すかということなんですが、私の専門の医療とか介護に限定して言いますと、片山委員が「日本一をつくれ。」とおっしゃったんですが、私は医療とか介護は、岡山市は日本一になるポテンシャルが十分あるんじゃないかと考えています。例えば、人口あたりの医師数とか、病院数とか、全国でも有数の水準でございますし。それから、介護の方も施設サービスとか、在宅サービスとか、政令指定都市の中でももしかしたらトップかもしれないぐらいのいろんな資源があります。

いろいろ問題もあって、例えば、在宅で亡くなっている人って、今、岡山市で12パーセントぐらいで、8割以上は病院で亡くなると。できたら、市民は在宅で療養して、自宅で畳の上で亡くなりたいと思っているのかもしれないんで、その辺は問題なんですけれども。ただいま非常に市役所の皆さんが元気で、一つは岡本委員が言われた「健康寿命を延ばす」こともいろいろ活動を展開されているみたいですし。それから、介護も介護特区というのも国から指定されまして、要するに、介護サービスの水準をどうやって上げていくかということはかなり積極的に展開されています。それから、来年は市民病院がいよいよ開院することで、ハードの問題と保健・医療・福祉の連携をやることで、ハードとソフトをバランスよく展開していくことで、市役所が非常に元気に活動をされていますね。

結局、医療・介護の体制充実と岡山市のまちづくりをどうやってつなげていくかということが課題になると思うのですが、我々としても、ぜひ貢献したいと思っているのですが。何とか日本一をそこで打ち立てられないか、と片山委員のお話を聞いて思いつきました。以上でございます。

○越宗会長 委員の皆さん、ありがとうございます。それでは、続きまして泉副会長お願いします。

○泉副会長 大変たくさんキーワードを拝聴させていただきまして、逆に、会長補佐は大変だなと実感として思っております。ご参考までに、私は企業の経営者として、企業経営の段階でどういうふうな経営計画をつくるか、どういう視点でやるかみたいなことをとりあえずご参考までに申し上げておきたいと思っております。

企業経営を計画する場合には、基本的には良いところを伸ばして、悪いところを止めるみたいなところが基本でありますし。そのためには、やっぱり大きい夢を語らないと良い企業にはならないということがございます。今回の審議会は、まずは大きい夢を語ると。多方面の皆さん方、論客ばかりでございますから、「大きい夢をまず語ろうじゃないか」というところが一番いいこと。スタートすると一番いいところだと思います。

ただし、そこから先なんですけども、さはさりながら企業経営でありましたり、行政そのものでございますので、実現可能性があるかどうかとか、持続可能性があるかどうか

だとかということで、非常に重要なファクターとして企業経営はやっております。その場合に、梶谷委員から「10年ですか、その先ですか」みたいなお話がありましたけども、何分、ちょっとややこしい話をしますと、不確実性が高まっている中で10年というのは適当なスパンかなというふうに思います。

今回は市の、言わば経営計画をつくることですので、民間の経営計画の手法が必ずしも適切であるかどうかというのはあるとは思いますが、しかし、一応そういうことも頭に置きながら、会長さんの補佐を務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○越宗会長 泉副会長さんからの会長のまとめのようなことをおっしゃっていただいたので、しゃべることがもうなくなったような気がします。ですから、私は自分自身の勝手な思いを少し話させていただきたいと思います。

岡山に限らずこれからの日本のまちづくりって、やっぱりキーワードと言いますか、鍵になるのは災害に強いことと、それから高齢者・障がい者などの弱者が暮らしやすいという大ざっぱに言いますとそういうことではないかなと私は考えております。

岡山市の場合はその点、もう既に十分に災害に強い都市でありまして、浜田委員さんが関東から移られているわけですけども。「岡山に来て初めて魅力がわかった。」とおっしゃいましたけども。本当に岡山市は自然災害も少ないですし、交通の便もいいと。大変暮らしやすいのではないかと思います。岡山市も今、首都圏の移住希望者に相談会を開いたり、あるいは下見ツアーとか開催したりしておられますけども、もっともっと私は積極的にPRをすべきではないかと常々に思っております。

もちろん気候が温暖だし、旭川があって水不足のリスクはないし、食べ物おいしい。加えて、新幹線、高速道で交通の中四国のクロスポイントになっていると。そういう面で防災、減災という面でこれほど優れた魅力的な都市は他にはないんじゃないかなと、そんなふうに思っているところであります。

それから、弱者が暮らしやすいというか、弱者に優しいまちづくりを目指す上でも、もう岡山市は既に十分な素地があると思います。やはり、それは医療、福祉という面が非常に充実していることでもありますし、岡山大学病院をはじめ、医療施設が整っておりますし、福祉も旭川荘に代表されますように、医療と福祉が一体になった先進的な取り組みもなされております。

その中で、岡山市の課題という面では、やはり公共交通網の整備ではないかなと思います。近隣からのアクセスを良くするという。それから、お話も出ましたけども、イオンの開業で拠点性がより高まりました中心部の回遊性というものをこれからどう図っていくかとか。

岡山というのは本当に平たんな地形で、歩きやすいし自転車の移動も楽なわけですし、公共交通網と言いますと、大森市長さんが国交省時代から大変蓄積を持っていらっしゃいます。自転車先進都市の取り組み、あるいは今計画にあります路面電車の岡山駅乗り入れ、

あるいは吉備線の LRT 化というものもこれからの課題であろうと思います。

要するに、どなたかおっしゃいましたが、弱者にも暮らしやすいエココンパクトシティというものを目指していただきたいなということを私個人は常々思っているところでございます。

会長としてのまとめはもうしていただきましたので、そういうことにさせていただきたいと思います。

6 協議事項（3）その他

○越宗会長

それでは、大体各委員さんのお話も伺いましたので、次のその他、事務局の方から何かございますか。

○事務局（門田） 事務的なご連絡でございます。次回の基本政策審議会の開催日程でございますが、お手元に日程調整表をお配りできておりますでしょうか。この場でご都合の判る方はご記入をいただいて、後ほどご提出いただければと思います。お判りにならない場合は、後日 E メール、電話等でご連絡をいただければと思っております。皆様のご都合をもとに、会長、副会長等と日程、議事内容等について調整しまして、改めてご連絡を差し上げたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

○越宗会長 次回の開催日程、それから審議事項につきましては、皆様のご都合をもとに、正・副会長と事務局の方で詰めさせていただくことでよろしゅうございますか。ありがとうございます。

7 閉会

○越宗会長 それでは、本日の日程はこれで終了でございます。皆様、本当にご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。これをもちまして、本日の平成 26 年度第 1 回岡山市基本政策審議会を閉会といたします。ありがとうございました。

閉会